

「朝倉褥瘡予防研究会」が 福岡県の複数事業所連携事業の 補助事業採用に

Vol. 39

ASAKURA CONFERENCE OF NURSING
CARE INSURANCE BUSINESS

朝倉 介護保険 事業者協議会

会報

朝倉介護保険事業者協議会 会報
Vol. 39 平成24年3月31日発行



朝倉介護保険事業者協議会福祉用具部会の主管で活動している「朝倉褥瘡予防研究会」が、福岡県の複数事業所連携事業の補助事業の対象として採用となり、活動に励みがつきました。

3年前にスタートした「朝倉褥瘡予防勉強会」でしたが、今年度から連携事業として組織新たに「朝倉褥瘡予防研究会」として活動開始の矢先に福岡県の補助事業の話が有り、申請の結果の嬉しい採用でした。「朝倉褥瘡予防研究会」では、「朝倉地区の褥瘡0を目指して」の大きなテーマを掲げての活動で、テーマが大き過ぎて、必要性は分かっているも時には方向性を見失う事もありましたが、福岡県の補助事業として認められた事で、メンバーの士気もグッと上がり、内容も充実したものに成っています。活動内容として①朝倉地区の在宅・施設事業者への褥瘡に関するアンケート調査 ②他事業所間の人材交流会（協力施設 朝老園・清和園・きらく荘） ③日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会九州地区床ずれセミナー参加（大分市） ④褥瘡対策セミナー参加（福岡市） ⑤日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会理事 下元佳子先生の褥瘡予防講習会（参加者110名） ⑥日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会理事 堀田由浩先生の褥瘡予防セミナー（参加者96名）⑦活動内容発表会等です。

福祉用具部会としてもこの「朝倉褥瘡予防研究会」でやってきた活動が、朝倉地区でどれ位浸透しているのか計り知れていませんでしたが、②の他事業所間の人材交流会に参加して、3年前からの勉強会を通じて現場では、多職種の方がチームを作り、かなりのレベルで実践されている事を目の当たりにして、これまでやって来た事が、無駄では無かったものと確信致しました。

しかし、これで褥瘡が0に成った訳ではなく、この連携事業の継続とネットワーク化及び現在まで積み上げたノウハウの継続・更新が今後の課題です。施設、在宅のケアに係る方々の褥瘡に対する意識と技術をもっと高めて行く事と地域普及を図ることを目指して取り組んでまいります。



認知症サポーター300万人達成

この「認知症サポーター100万人キャラバン」事業は、平成17年度に厚生労働省の「認知症を知り地域をつくる10ヶ年」キャンペーンの一環として、認知症について理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する「認知症サポーター」を全国で100万人を目標に養成し、「認知症になっても安心して暮らせるまち」を住民の手によりつくっていくことを目指して始まったものです。

朝倉地区においては、当協議会が平成20年度より取り組みを開始し、行政との協働事業として枠を広げ、朝倉市・筑前町・東峰村に事務局を開設していただきました。

また、平成21年8月朝倉市において109名、平成23年1月筑前町において40名のキャラバン・メイトが誕生しております。

現在では150名強のメイト数、約3,000名のサポーター数。全国大では、平成23年12月末で認知症サポーター数が300万人を達成し、高齢化の進行とともに地域における認知症ケアの必要性を反映した結果となっております。

今後は、朝倉地区行政事務局を中心に多くの方に参加していただき、認知症になっても安心して暮らせる朝倉地区をつくってために、サポーター養成講座・フォローアップ研修等の支援の輪を広げていきます。

協議会ホームページへ今すぐアクセス！ <http://www.asakura.in>

朝倉介護

検索

事業報告 I

第5回スタッフセミナー

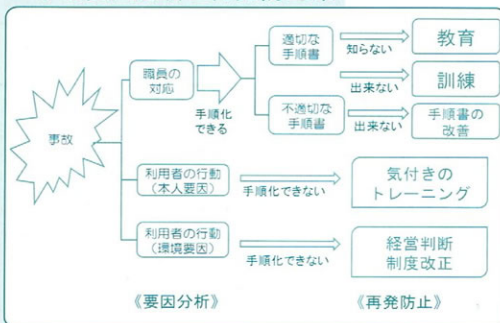
「リスクマネジメント・事故対応」

平成24年2月22日(水)、朝倉市のビーポート甘木にて、当協議会の第5回スタッフセミナーが開催された。今回は社会福祉法人 福成会ケアハウスメゾンマリアの施設長 岡由紀子氏を講師に迎え、『介護現場におけるリスクマネジメント』をテーマに、近年、激増する高齢者施設のトラブルをめぐって『安全管理』の必要性が叫ばれる中、それに向けた体制作りを職員個々人ではなく、事業組織の仕組みの問題として考える姿勢が重要であることが示された。



人は誰も間違いを犯すという前提のもと、事故になり得た出来事や実際に発生した事故については、適切なヒヤリハットを作成し、繰り返しやすい“事故の連鎖”を防ぎ、万が一の被害も最小限に抑えるためにも効率的な情報の記録と共有が求められること、また、そのためには日頃のリスクに対する“気づき”を大切にしながら取り組める環境づくりが活かされることなどが身近な例を交えて解説された。

事故要因分析と再発防止策



事故対応の流れ

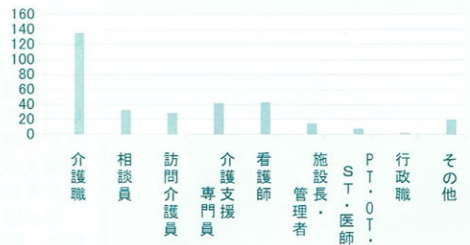
- 1) 事故の把握と家族への十分な説明
 事実とは出来るだけ早く確認・記録し家族に十分に説明する
 迅速性・誠意ある態度で臨むほうがいい
 - 2) 改善策の検討と実践
 今後どうするのか、家族に安心してもらえるように具体的な
 再発防止策を検討・実践し、家族に報告する
 - 3) 誠意ある対応
 苦情や迷惑を掛けたときには人間的な共感を持って誠意ある
 対応をすることが大事
 施設の責任問題、損害賠償につながることもある。
- 事故の発生に備えて・・・
 日ごろの備えが大事!! スタッフ間の連携、連絡体制、事故後の
 記録を誰がどのように記録するのか・・・など
 明文化して全ての職員に周知徹底することが望まれる。

事業報告 I

第5回スタッフセミナー アンケート結果

(1) 参加者数 327名

参加者数 327名		
一般		
1	介護職	135
2	相談員	33
3	訪問介護員	29
4	介護支援専門員	42
5	看護師	43
6	施設長・管理者	15
7	PT・OT・ST・医師	8
8	行政職	2
9	その他	20
合計		327



(2) 参加者の住まい

参加者の住まい	業種	職種
旧夜須町	居宅介護支援	介護職
旧一輪町	訪問介護・入浴	相談員(病院、施設、福祉用具貸与)
旧甘木市	訪問看護	訪問介護員
旧朝倉町	訪問リハビリ	看護師
旧杷木町	通所介護	OT
旧小石原村	通所リハビリ	PT
旧宝珠山村	福祉用具貸与・住宅改修	ケアマネジャー
その他	居宅管理療養	栄養士
合計	グループホーム	介護福祉施設
	介護保健施設	病院・医院
	支援センター	小規模多機能
	行政	その他
	合計	合計

(3) アンケート回答者数 226名

1	非常に良かった	95
2	良かった	119
3	どちらともいえない	10
4	あまり良くなかった	1
5	良くなかった	1
合計		226
アンケート回答率		69%

(4) スタッフセミナー参加のきっかけ

1	協議会よりの案内	95
2	協議会のホームページ	0
3	事業所からのすすめ	131
4	知人からの進め	0
5	その他	0
合計		226

(5) 経過年数について

1	1年未満	17
2	1年以上3年未満	28
3	3年以上5年未満	30
4	5年以上10年未満	81
5	10年以上	70
合計		226

(6) ① 講義内容について

- 内容が分かりやすく実際に使える内容で、良い講演でした。ありがとうございました。 91名
- 記録の重要性とヒヤリハットについて再確認できました。 32名
- 講師の方の声がはっきりとしていて内容が伝わりやすかった。 7名
- 時間が足りないほど内容が良かった。もっと聞きたかった。 5名
- リスクマネジメントの意義が良く理解できた。リスクマネジメントの見方が変わった。

② 内容・在り方

- これからの介護保険制度改正について。医療とのW改定の為。 2名
- すぐ聞きやすく分かりやすい内容でしたので、このような内容でお願いします。 2名
- 時間が少なかったのが残念です。皆さん熱心で感謝しています。 2名
- 23年4月～24年にかけてのスタッフセミナーはとても良いテーマが多かったように思います。

③ 協議会への要望等

- 室内が寒すぎる。講義に集中出来ない。 7名
- スタッフの方の努力に敬意を表します。いつもありがとうございます。 6名
- 年間計画の日程が決まるのが少し遅すぎる気がします。早いと助かります。
- 受講証明書が何のためにあるのか分からない。紙のムダなのではないか？

事業報告Ⅱ 部会活動報告

グループホーム部会



説明をして頂きました。また、各施設から意見を述べて頂き、同意書の説明がありました。

定例会とは別に各施設の視察を計画し、7事業所を終えることができました。ホーム内を見学し利用者様と会話したり、意見交換会で勤務形態や利用者様の介護、記録、行事等の質問等が熱心になされました。

各施設間の交流を行うことで、御利用者様にとってより楽しく過ごして頂ける支援ができ、地域との交流も深まるものと思います。

グループホームすずらん 飯田たまえ

グループホーム部会は、現在9事業所で活動しています。今年度は、定例会を年4回開催。

第1回目は各事業所の管理者が事業所の紹介。

第2回目は新人職員研修会を開催し、講師として「グループホームさくら」施設長の宮川みどり様にグループホームでの認知症の方への介護支援についてお話し頂き、質問にお答え頂きました。

第3回目は、「看取りについて」をテーマに開催。看取りを行っている事業所は3施設です。グループホームさくらから施設内での「あらかな看取りのために」こんなことが起こりますと、資料をもとにとっても分かりやすく症状や観察の

訪問介護・訪問入浴介護部会

武光ヘルパーステーション 大内田 初美

訪問介護部会は、16事業所で年3回の定期部会を行っています。

協議会の拡大運営委員会の各部会の報告を行い、各事業所から出される事例・相談や質問に対し、経験ある責任者や事業所からの情報・アドバイスを参考に不安の解消や改善方法などを探っています。

訪問介護の内容は個性が高く、環境もさまざま、利用者さま、ご家族意向、ニーズの違いに関する考え方など、プランにない部分は訪問先でのヘルパーの対応や対処が難しいものがあり、各事業所が抱える不安となっているため、それぞれの訪問先での事例などを参考に、多く意見交換が出来ることを期待して参加しています。

介護報酬改定を前に不安が山積み・・・各事業所により違う書式なども不安の材料のひとつではありますが、皆で協議しながらより良い訪問介護へと繋がっていければ・・・と考えています。



Hobby Box

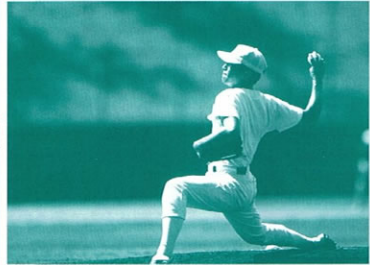
～ 野球の素晴らしさを介護に… ～

グッド・リンク 吉開 翔悟 さん

初めまして。筑前町栗田にあります、福祉用具貸与業者グッド・リンクの吉開です。私の趣味は野球です。私は、小学校から大学までずっと野球をしていました。

現在は、毎週日曜日に草野球をしています。野球の素晴らしい所は、最後の一球まで何がおこるか分からない所です。また、野球を通じて仲間がいる幸せ、チームで力を合わせる事により人間関係を築ける素晴らしさを学びました。

介護業界も、ご利用者の皆様が自立した日常生活を営めるように、各事業所の方々が力を合わせサポートを行う所は野球に似ているところがあると思います。これからも野球を通じて学んだことを、この仕事に生かしていきたいと思っています。



My Way

太刀洗病院（通所リハビリ）の 飯田 真由美さん

今回の紹介者は「たちあらい訪問看護ステーション 平野 美幸」さんです。

太刀洗病院 通所リハビリの“飯田”さんを紹介させていただきます。
8年前に太刀洗病院に来られ、ヘルパーとして訪問介護をされていました。いつも明るく元気いっぱい、顔を見るたびに私の方も元気になります。昨年、通所リハビリの方へ異動になり、一時期は「できるかな～？」と不安そうにしていましたが、そこは持ち前の明るさと行動力で難なくクリアー！！利用者さんに対して細かいところに目が届き、またさりげなく対応される、誰にでもお勧めしたい介護スタッフの1人です。趣味は、ママさんバレーとその後の“飲み会”。これからも、その笑顔で周囲の人たちを元気にしてください。



次回は飯田 真由美さんからのご紹介で

朝倉ヘルパーステーション 辻 聡子さん です！

介護スタッフリレーコラム

「この二年を振り返って」

朝倉医師会病院 理学療法士 森 途二夫



私が訪問リハビリテーションに携わって2年が経とうとしています。院内業務しか経験のない私は、利用者様やそのご家族にうまく接しているか、かかりつけ医やケアマネジャーとうまく連携できるかと不安でした。

今では、関わっている人たちとコミュニケーションや連携を取ってきたかなと感じながら、ワゴンRを走らせています。

訪問リハビリに携わって感じたことは、利用者の求めるリハビリと、私が実施しているリハビリの違いです。院内業務時は歩行ができれば大丈夫だろうと思っていました。しかし全てではありませんが、冬場の在宅では自宅は暖かいので、廊下やトイレが寒く移動したくないと臥床が続いたり、また

そうすることでキツイからと、本人も活動することが少なくなり、家族の介助量が増えているということです。歩行を行ってもらうことより、どうやって廃用を予防し離床させていくか、この時期は頭を悩ませています。

これから少子高齢化が進んでいきます。高齢者を支えるのは騎馬戦型から肩車に移行していきます。かかりつけ医やケアマネジャーなどと連携を図りながら、これからも利用者様やそのご家族に、少しでもリハビリで心身共にサポートをさせて頂ければと思っています。

徒然日記

介護老人保健施設サンビレッヂ朝日ヶ丘 R・I

～言葉の持つ力～

徒然日記を引き受けたのは約1か月前だったのに、気がつけば締め切りの日が目前でした。それなのに、そもそも「徒然日記」とは何だ？と思いついてみると、「暇だから日記でも書いてみようか・・・」ということなのだとか。私は毎日忙しくて「暇なんてどこにもないのだ！」と心で叫びながら考えてみました。そういえば昨年「言葉の持つ力」について深く感銘を受けたことがありました。

平成23年3月11日は私たちにとって忘れられない日となりました。東日本大震災から約3か月経った頃、天皇・皇后両陛下が被災地にお見舞いをされた時の皇后陛下のお言葉です。「助かってくださってありがとうございます」。私は一瞬で胸が熱くなりました。生き残った方の中には、家族や親しい人を目の前で失った悲しみを持っておられるかもしれません。助けられなかった悔しさを胸に秘めておられる方も多いのではないのでしょうか？将来を不安に感じているのではないのだろうか？など考えると、被災された方に対してどんな慰めの言葉があるのだろうかと思っていました。たとえば皇后陛下に

「助かってよかったですね」と言われても「いいえ、そうは思いません、生き残ってつらいです」と心の中でつぶやくかもしれません。でも、「助かってくださった」という言葉は、今ある命に対する全面的な受容と承認、被災した方の気持ちに寄り添う圧倒的に優しい言葉だと思いました。皇后陛下の人格と被災者に向き合う姿勢が言葉に滲み出ていると思いました。私はこの易く優しい言葉の持つ力に感動しました。こんなにも感動したことだったのに、それさえも忘れてしまいそうになっていました。徒然日記のように時々立ち止まって大切なことを記録し振り返る時間も必要ですね。

もちろん施設の中で言葉の大切さを考えさせられることは多々あります。施設の利用者の方々だけでなく職員間であっても励みや癒し、または勇気を与えるような言葉はその方を知ることから始まります。でも、その前に全面的に相手を受け入れるという姿勢が大切なのだと思います。結局初心に戻ります。何度も何度も初心に戻りながら少しずつですが前進あるのみです。

編集後記



空前の大震災から1年が経ちました。まだまだ復興の進まない被災地の方々を思うと心が痛み、私に一体なにが出来るだろうかと悩み続けたこの1年間でした。永遠に日常は繰り返されるものと思いき、仕事であってもプライベートであっても明日は必ず来るものだと思っていました。時間があると思うがゆえに、真剣には取り組んでこなかったかも知れないと、これまでを省みて自分を恥ずかしく思いました。ですから私も、被災地の方々が一日一日復興に向かうのと同じように、少しずつでも…福祉の理念に向かって真剣に歩んでいこうと思います。(熊谷)